

津製作所構内でバイオマス発電を事業化

JFE エンジニアリング株式会社(社長:狩野久宣、本社:東京都千代田区)は、このたび津製作所構内において、株式会社日本政策投資銀行(社長:橋本徹、本店:東京都千代田区)他4社と共同で、株式会社グリーンエナジー津を設立し、バイオマス燃料による発電事業を開始しますので、お知らせします。

建設されるバイオマス発電所は、循環流動層ボイラ(CFB ボイラ)を用いて木質チップやPKS^{※1}を燃焼して発電するもので、本年11月に着工し2016年7月に稼働する予定です。発電出力は約20MW、年間想定発電量は158,000MWh^{※2}で、発電された電力はFIT(再生可能エネルギー固定価格買取制度)を活用して、当社100%出資のPPS^{※3}であるアーバンエナジー株式会社(社長:小賀坂善久、本社:横浜市鶴見区)などに売電します。

グリーンエナジー津は、発電所の建設・運営資金(約90億円)を、主として株式会社百五銀行(頭取:上田豪、本店:三重県津市)および三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:常陰均、本店:東京都千代田区)、日本政策投資銀行からプロジェクトファイナンス(約15年)により融資を受けます^{※4}。これは返済原資を売電収入のみに限定したノンリコースローンです。

当社はプラントの設計・調達・建設(EPC)のほか、グリーンエナジー津から20年間の包括運営(O&M)を受託します。このたびのプロジェクトファイナンスは、当社の提供する最先端技術や、プラント運営の豊富な実績に基づく操業安定性などが評価され、成立したものです。

また、バイオマス発電の燃料には、バイオマス産業都市構想を掲げる津市の御協力を得て、地域資源である未利用間伐材等を積極的に利用する予定です^{※5}。

当社はFIT施行以降、各地で電源の多様化が進められる中、発電プラントに関するさまざまなエンジニアリングを提供しています。再生可能エネルギーの中でも天候などに左右されず24時間発電ができるバイオマス発電への注目が高まる中、当社は今後もEPCや運営にとどまらず、事業組成に関する提案も進め、幅広く各地での事業化に貢献してまいります。

本案件については、津市より「津市政記者クラブ」、日本政策投資銀行より「日銀記者クラブ」、百五銀行より「三重県政記者クラブ」「名古屋金融記者クラブ」に同時リリースされています

- ※1 Palm Kernel Shell。油ヤシの搾油時に発生する殻。外材であり、主にマレーシア、インドネシアから輸入。
- ※2 一般家庭 43,900 世帯の年間電力使用量に相当。一世帯あたり 3,600kWh/年をベースに算出。
- ※3 特定規模電気事業者
アーバンエナジー設立に関するリリースは以下
<http://www.jfe-eng.co.jp/news/2014/20140403100712.html>
- ※4 百五銀行および三井住友信託銀行が約 70 億円の優先融資(返済における優先順位が高い融資)を行い、日本政策投資銀行が約 10 億円の劣後融資(返済における優先順位が低い融資)を行う。
- ※5 2014年9月22日 この事業を協力して推し進めるため、津市とJFEエンジニアリングは、バイオマス産業都市構築に関する包括連携協定を締結した。

■会社概要

- (1) 名称：株式会社グリーンエナジー津
- (2) 所在地：三重県津市雲出鋼管町1番地（JFE エンジニアリング（株）津製作所内）
- (3) 代表者：金森 聖一
- (4) 資本金：1 億円（設立時 3,520 万円 ⇒2014 年 10 月増資完了予定）
- (5) 出資者及び出資比率（増資完了後）
 - JFE エンジニアリング株式会社（35.2%）
 - 株式会社日本政策投資銀行（25.0%）
 - 日本通運株式会社（14.9%）
 - 阪和興業株式会社（10.0%）
 - 大中物産株式会社（10.0%）
 - 岡谷鋼機株式会社（4.9%）
- (6) 設立年月日：2014 年 2 月 4 日

■完成予想図（CG）



■建設予定地（津製作所）



本件に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

JFE エンジニアリング株式会社 総務部広報室